事業番号　0304

平成２４年行政事業レビューシート　（農林水産省）

事業名	持続的養殖生産・供給推進事業	担当部局庁	水産庁	作成責任者
事業開始・終了（予定）年度	平成１５年度～平成２６年度	担当課室	増殖推進部　栽培養殖課	栽培養殖課長 前　章裕
会計区分	一般会計	施策名	⑮水産資源の回復	
根拠法令（具体的な条項も記載）	－	関係する計画、通知等	水産基本計画 （平成19年3月20日閣議決定）	
事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	飼料価格の上昇等により、養殖業の経営環境は悪化しており、また、消費者の安全や品質への要求水準の高まりの中で、養殖生産物の安全面に配慮した高度な生産管理が不可欠となっている。このため、効率的、かつ、消費者のニーズに対応した養殖生産を推進する。			
事業概要（5行程度以内。別添可）	① 輸入種苗に依存せず国内種苗を用いた商業的な養殖生産を推進する体制の構築（養殖用人工種苗導入推進事業）[補助率：定額、1／2] ② 新しい飼料や機材を活用した生産コストの削減（革新的養殖システム開発養殖事業）[補助率：1／2] ③ 病気や微生物汚染等の生産・出荷におけるリスク回避のための対応策の検討・実践への支援及び消費者に対する情報発信（養殖生産管理高度化事業）[補助率：1／2] ④ 魚粉の含有量を減らした安価な配合飼料の実用化や効率的な生産方法の開発（養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業） に対して支援を行う。[補助率：定額、1／2]			
実施方法	□直接実施　□委託・請負　■補助　□負担　□交付　□貸付　□その他			

予算額・執行額（単位：百万円）

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
予算の状況	当初予算	186	180	79	47	
	補正予算	▲ 44	▲ 30	▲ 11	－	
	繰越し等	－	▲ 2	2	－	
	計	142	148	71	47	
執行額		113	127	60		
執行率（%）		80%	86%	85%		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値（23 年度）
主な栽培漁業対象魚種及び養殖等の生産量	成果実績	千トン	1,826 (1,820)	1,788 (1,829)	1,665 (1,837)	1,837 (23)
	達成度	%	99.4%	97.3%	90.6%	
海面養殖業の生産量	成果実績	千トン	1,210 (1,202)	1,168 (1,208)	1,059 (1,213)	1213 (23)
	達成度	%	100.7%	96.7%	87.3%	

活動指標及び活動実績（アウトプット）

活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
① 事業実施数（養殖用人工種苗導入推進事業）	活動実績（当初見込み）	回	－	－	－	(2)
② 事業実施数（革新的養殖システム開発養殖事業）		回	4	11	11 (11)	—
③ 事業実施数（養殖生産管理高度化事業）		回	64	386	395 (121)	(34)
④ 事業実施数（養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業）		回	2	2	1 (2)	—

単位当たりコスト

各事業の実施数（単位当たりコスト）
②革新的養殖システム開発養殖事業
1,294,488円／回

③養殖生産管理高度化事業
74,293円／回

④養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業
8,193,137円／回

算出根拠

②革新的養殖システム開発養殖事業
単位当たりコスト（円／回）＝養殖試験・漁場調査費／実施数
（H23）14,239,370円／11回＝1,294,488円／回
（H22）15,439,833円／11回＝1,403,621円／回
（H21） 5,196,318円／ 4回＝1,299,080円／回
③養殖生産管理高度化事業
単位当たりコスト（円／回）＝執行額／実施数
（H23）29,345,777円／395回＝74,293円／回
（H22）20,914,627円／386回＝54,183円／回
（H21） 6,135,620円／ 64回＝95,869円／回
④養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業
単位当たりコスト（円／回）＝執行額／実施数
（H23）8,193,137円／1回＝8,193,137円／回
（H22）21,514,220円／2回＝10,757,110円／回
（H21）19,009,336円／2回＝ 9,504,668円／回

平成24・25年度予算内訳

費　目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由
養殖用人工種苗導入推進事業	20		
養殖生産管理高度化事業	27		
計	47		

事業所管部局による点検

	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	公募による事業のため、申請のあった実施主体数及び事業規模（金額）が当初見込より低くなったことから、不用率が15%となった。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	・養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業については公募条件に特段の制限はなく、事業に関心を示した数社から問い合わせがあった。しかしながら、専門的知識が必要といった理由から、最終的に申請に至った応募者は1者となった。 ・単位当たりコストについては、H21と比べ削減されており、妥当である。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	平成23年度において、海面養殖業の生産量の指標における達成度が87.3%となったところ。これは、東日本大震災の発生に伴い、被災道県の養殖施設が甚大な被害を受けたことによるものである。なお、被災道県においては、被災した養殖施設の早急な復旧・復興に向け、全力で作業が行われているところである。
	△	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	―	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
		※類似事業名とその所管部局・府省名　なし	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・本事業は、水産基本計画に基づき、養殖場の環境改善、水産医薬品の適正使用、防疫体制の整備等を行うものであり、必要性が高く優先度が高い事業である。また、国民に対し安全な水産物を供給することはニーズの高いものである。 ・1者応札の解消に向け、今後はより詳細な事業のPR活動を行ってまいりたい。 ・事業の成果については、事業の成果として、魚類加工残さの広域回収システムが構築され、再資源化が向上し、また、抗菌剤、ワクチンを使用しないクルマエビのビブリオ病に対する生物学的防疫技術を確立されるなど、今後の応用が見込める成果を得ることができた。		

予算監視・効率化チームの所見

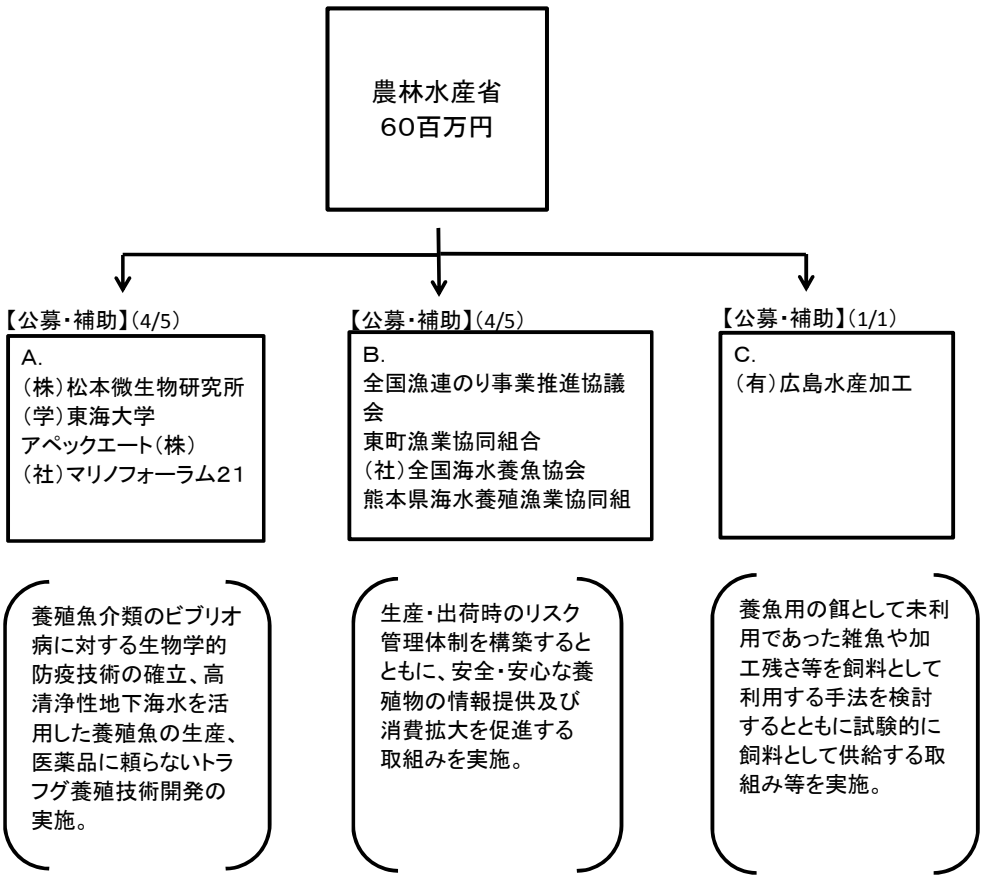
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）

補記　（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年行政事業レビュー	0439	平成23年行政事業レビュー	0314

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)



費目・使途（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている

A. （株）松本微生物研究所

費 目	使 途	金 額（百万円）
賃金	クルマエビ養殖試験に従事する作業員への賃金	3.6
設備備品費	自動水質制御システムの導入	0.3
消耗品費	養殖試験に係る飼料、その他消耗品、	1.4
役務費	潜水作業費	0.2
委託費	菌叢構造解析、養殖池管理、養殖地の水質・底質分析	2.2
旅費	研究計画、実施スケジュール、中間結果報告等の検討会等に係る事務局や委員の旅費	1.4
その他	通信連絡費、報告書印刷費等	0.1
計		9.2

B. 全国漁連のり事業推進協議会

費 目	使 途	金 額（百万円）
普及研修会等開催費	寿司ノリの消費拡大を図ったイベントに係る食材・資材費	9.4
役務費	問屋、流通業者、消費者に対するノリの消費動向・在庫状況の調査費等	3.0
情報開示実証費	広告宣伝費	0.7
旅費	ノリ消費拡大対策の協議、消費普及イベントの打合せ等に関する事務局の旅費	0.1
計		13.3

C. （有）広島水産加工

費 目	使 途	金 額（百万円）
消耗品費	加工残さ（魚アラ）のストックヤード・収集容器の製作	6.6
謝金	検討会出席に対する謝金	0.4
役務費	加工残さ（魚アラ）等保管・運搬費	0.3
旅費	飼料に適した成分であるかの分析費	0.8
その他		
計		8.1

A

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額	入札者数	落札率
1	(株)松本微生物研究所	養殖池水圏環境のクルマエビに対するビブリオ菌病の生物学的防疫技術の開発(革新的養殖システム開発促進事業)	9	4	100%
2	アペックエート(株)	感染病に対して発酵産物を添加した配合飼料を与えることによる予防効果の確認やストレス緩和効果の実証事業(革新的養殖システム開発事業)	7		
3	(学)東海大学	高清浄性地下海水を用いた低コストで高付加価値の養殖魚を生産する養殖システムの実証事業(革新的養殖システム開発促進事業)	3		
4	(社)マリノフォーラム21	無機質系抗菌剤のコーティング技術を応用した付着防止塗料を養殖網に応用することで、水棲生物の付着を軽減した低コスト化を図った養殖システムの実証事業(革新的養殖システム開発促進事業)	2		

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額	入札者数	落札率
1	全国漁連のり事業推進協議会	ノリの消費普及拡大を目的とし、消費動向の分析や、分析を踏まえた効果的な普及宣伝活動を実施。(養殖生産管理高度化事業)	13	4	100%
3	東町漁業協同組合	消費者ニーズに合った養殖魚づくりと消費者へ食べ方の提案まで行うことで養殖魚の評価の向上を図る。(養殖生産管理高度化事業)	8		
2	(社)全国海水養魚協会	養殖生産の現状説明や情報提供等を行う勉強会や学習会、養殖現場の紹介や消費者の抱えている養殖魚の不安解消のための意見交換会等を開催。(養殖生産管理高度化事業)	4		
4	熊本県海水養殖漁業協同組合	消費者を対象にした養殖魚の学習会や消費者を生産現場に招致した漁場視察会・生産者との意見交換会等を開催等。(養殖生産管理高度化事業)	2		

C

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額	入札者数	落札率
1	(有)広島水産加工	養魚用飼料の原料となる魚粉を安定確保するため、魚粉の原料となる魚類の残さを広域的に回収するシステムを構築する。(養魚用飼料向け未利用資源活用推進事業)	8	1	100%